

令和八年五月吉日初版作成

感謝行の意義と実施上の留意点

高嶋 善三郎

## 目次

- 感謝行の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 守護の神霊への感謝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 万物への感謝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 宗教の道において終始必要なのは感謝の心・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 天地を動かす真の言霊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウエブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（スマホ） 090-33346-6619

（メールアドレス） [zensan@peach.ocn.ne.jp](mailto:zensan@peach.ocn.ne.jp)

## 感謝行の意義

感謝行の意義について考えていく上で、参考になる五井先生のお言葉をみてみましょう。

五井先生は、『著書』『霊的な存在としての人間』の中で、「日々使っている言葉や想念波動を通して、実在界の言(光)の中に昇華してゆく」と次のように解説されています。要約・整理したものをみてみましょう。

聖書ヨハネ伝に「太初(はじめ)に言(ことば)あり、言(ことば)は神と偕(とも)にあり、言(ことば)は神なりき。この言(ことば)は太初(はじめ)に神とともに在り、万(よろず)のものこれに由りて成り、成りたる物に一つとしてこれにみらで成りたるはなし。なに生命(いのち)あり、この生命は人の光なりき」の行があります。

この文の中にあるこの言(ことば)は、一口で言えば、ひびきで、光の波動であり、この宇宙創造を成し遂げていたのであり、現在も成し遂げつつあるのであると言われているのです。この言(ことば)が現象世界、枝葉の世界に降ってくる、言葉となってくる。この言葉の世界には、想念波動の世界と普通使われる、人間の声を振るわせて出てくる言葉だけの世界もあり、この二種の世界は別々に活動している時と同じ

世界で活動している時とがある。これらの二種の世界は、言(ことば)が実在の世界、光明そのものの世界とすれば、現象の世界ということになる。人間はどちらの世界でも活動していると言われているのです。

想念波動と言葉の世界から、言(ことば)の世界へ自己の意識を投入してしまふ。即ち想念や言葉の世界を空にし、無為にし、神様に全託することによって、真実の言(ことば)、光そのものの言(ことば)が心身から溢れてでてくる、即ち実在の世界の様相そのものが、その人の心に現われて、神仏そのものの人格になってくる、というのが宗教の極意であり、それが釈尊の空、老子の無為、浄土門やキリスト教の全託の境地と言われているのです。

そして、私たちが毎日使っているこの言葉というものの中には、想念波動のひびきも、実在の世界の言(ことば) 光(のひびきも混じっており、得てして人々は、汚れた業想念波動の言葉を使いたがるが、せっかく神様が、光輝く平和な実在界を言(ことば)のひびきをもつてつくって下さっているのであるから、私ども人間は、日々使っている言葉や想念波動を通して、実在界の言の中に昇華してゆく必要がある。また、実在の世界に、言葉や想念の元になる光明そのものである言(ことば)があるということとは、有難いことと、善い言葉や、善い想念をたもつてゆけ

ば、実在世界の神のみ元にたどりつけるとして、具体的に昇華していく言葉使い方を示されています。

あの馬鹿野郎という言葉を、あの人の天命が完うされますように、と変えてゆき、この世に平和などとてもこない、地球はもう駄目なのだ、という想念波動を、悪いものはみんな過去世の神のみ心を離れていった誤った想念行為の消えてゆくために起こっていることなのだ、消えてゆくに従って必ずよい地球世界になってゆくのだ、というような明るい想念になって、世界平和の祈りの中にもってゆく、というように、実在界の光明につながってゆく生き方を示すことが大事である。

それには常に、言葉の使い方を勉強し、想念波動の在り方に気をつけて、常に常に、神のみ心に叶う、言葉使いや想念波動にしてゆかねばならないと言われています。

以上から、善い言葉を大切に使うことの意義は、この肉体界に実在世界(愛)と調和の世界(光)を創造してゆく上で、不可欠の要素である。日々使っている言葉や想念波動を通して、実在界の言(光)の中に昇華してゆく道は示されています。

善い言葉はほんの少しですが、五井先生が最も善い言葉として

挙げられている、感謝の言葉について、五井先生のお言葉(『白光誌から 1955年1月号から1980年9月号まで』(編集者不詳)を通じてどのように解説されているか見てみましょう。

感謝の言葉が何故最も良い言葉なのかを解説されています。

「言葉の中でもっとも善い言葉は、神さまを初めとして全てへの感謝の言葉と、世界人類の平和を祈る言葉である。」(『白光誌』1988年10月号14ページ)

「神に感謝し、全ての物事、事柄に感謝するその心は、すべて祈り心と等しいものである。」(『白光誌』1971年12月号99ページ)  
「人間にとって感謝し合う心は尊いことであるし、真理が自然に現われ神のみ心が自ずと現われる、大事なことである。」(同誌1980年10月号88ページ)

「感謝の心は愛の心とならば、人間生活を立派な平和なものにする、根本の心なのである。」(同誌1978年6月号55ページ)

「感謝というものは、お互い気持ちよく、相手と一いっしょになることである。愛の現われである。相手と一いっしょになり、しかも神のみ心の中に昇ってゆくのが、感謝なのである。」

誰々さんありがとうございます、と言います。また、ありがたいなと思う。そうすると、その人、あるいは物と一体になるわけである。どのようない体のなり方をするかということ、業と業とが一つになるのではなくて、光と光、本心と本心が一体になるのである。ということは、そこに神さまが現われるということである。神さまは光であるから、感謝は光なり、ということになるのである。」(同誌1998年1月号26ページ)

### 守護の神霊への感謝

私たちの肉眼では見えないが、私たちを見守って下さっている、守護の神霊に感謝することの大切さを解説されています。

「私が神さまと一つになった時に、こうやってみると守護霊守護神が涙ぐましい働きをしている。霊の方では眠らないで働き放しなのであるから。それで一生懸命業をかぶっては、苦しくなると滝へ行ったり、神さまの世界でもみそぎがあるのであるから。やって又来ては守り一生懸命しているわけ。

それをこっち(肉体人間)は少しも感謝しない。これはまず第一番に守護霊守護神に感謝させなければだめだと思ったのである。」(同誌1991年3月号24ページ)

「肉体人間の方で守護の神霊への感謝をつづけていることが、どれ程守護の神霊の守りの力を強めるかということは、多くの人々の奇蹟の体験となつて、積み重ねられていつているのである。」(同誌1992年9月号9ページ)

「守護霊に感謝し、いつも心を下座につけ、柔和な心になって明るい心になつて、神さまに感謝しすべてのものに感謝し、もし消えてゆく姿があったら、これで過去世からの業が消えて本心がますます開いてゆくのだと、守護霊守護神に感謝し、あらゆるものを感謝と希望の方向に向けてゆく。そういう道が平凡のようだけれど、すばらしいのである。」(同誌1996年5月号21ページ)

「積極的に神さまありがとうございますと感謝すれば、お祈りすれば、想念停止とか空とかをこび越えて、神さまと一体になるわけである。」(同誌1974年9月号22ページ)

「現在では肉体人間の波動が、霊的波動にかなり近づいている。無限に微妙な神界の波動が、守護神守護霊と次第に波を粗くして肉体人間の波に合わせて来ているのであるから、肉体人間の方から常に守護の神霊への感謝行をつづけていけば、守護の神霊の波動と肉体人間の波動とが、全く一つになり得るのである。」

そうしたことが完成された時、その人の本心は全く開発され、神人といわれ聖者といわれる神我一体の人になり得て、神通力を自己のものとする事が出来るようになるのである。」(同誌1960年1月号11ページ)

## 万物への感謝

私たちの身の回りのあらゆる事物事柄への感謝は、私たちが宇宙の法則に乗っていく上で、きわめて重要といわれているのです。

「あらゆる事物事柄によって、人間をこの世に生かしている大生命、即ち神の恩恵こそ人間にとって最大のものであることは、あらゆる事実によつて証明されているのである。

であるから神への感謝と万物への感謝がなければ、この世界は成り立ってゆくわけが無いのである。」(同誌1962年3月号7ページ)

「守護の神霊への日々の感謝、それに加えて自分を生かしてくれている、肉体すべての細胞に対する感謝、空気や水やその他自分たちに必要である自然の要素に対する感謝等、よく落ちついて考えれば神々や自然や物事への感謝こそ、宗教精神の重大な要素といえるのである。」(同誌1976年9月号9ページ)

「初めから神とか仏とか想えぬ人たちは、まず自己を生かしてくれてい

る四囲の万物に感謝することである。

空気、水、食物、大地、太陽、両親、兄弟姉妹、先生、友人、すべてが自分を育くみ力つけてくれているのですから、こうした周囲の万物に感謝するということは、実に当り前のことなのである。

そうした感謝の中に、神仏へのご恩報じが自然と行われているのである。」(同誌1956年2月号23ページ)

「宇宙法則、生命の法則にのってゆく為には、神への感謝万物への感謝ということが必然的に必要なものであり、この感謝行によって神のみ心である宇宙法則の波、生命の本源のひびきと一つになり得るのである。

これを宗教的にいえば祈りという事になり、この感謝行を横にひろげてゆくと、世界人類の平和を祈るといふ事になる。

世界人類が平和でありますようにという祈り言は、人間一人一人の感謝行でもあり、人類の大願目達成の人類波動の調整ということにもなるのである。」(同誌1965年8月号7ページ)

「かたんに実行できる愛行、祈りの行をすることが一番いい。

それは何かというと、あらゆるものに感謝することである。歩きながら大地さんありがとう。空気を吸うことのありがとう、太陽の照ってくれるありがとう、水のありがとう。それをどうぞ、今日からでも一生懸

命実行しましょう。」(同誌1971年1月号22ページ)

「神々の慈愛は、天となり、地となり、太陽となり、空気となり、水となって、人類をはじめあらゆる生物を発育生成させようとしている。

人間はそうした天地の大恩を忘れ果てている。人間はまず天地への感謝から、一日の行事を始めなければいけない。この新年の初めにも、まず天地への感謝の柏手をたたき平和の祈りをするのである。」(同誌1975年1月号3ページ)

「人間の生命は常に生き生きと、明るく美しく愛し合い、調和そのもののひびきをたてつつけて、大宇宙に動きつづける本質をもっている。

その本質は神との一体化という、単純な行爲によって現わされるのである。その最も容易な方法が、ありとしあらゆる物事に対する感謝行なのである。ありがとうございますという一言は、祈りそのものでもあるのだ。神を知るために、生命を活かすために何事にも感謝行をつづけるごよい。」(同誌1969年11月号3ページ)

「太陽には太陽神があるように、地球には地球霊王が厳然として存在して、物質界を支配しているのである。例え一つの小さな物質といえど、地球界にあつては地球霊王のみ心が働かなくては、その存在が成り立たないのである。

であるから人間がこの地球界において生きてゆくには、守護の神霊への感謝はもちろんであるが、天地の恩恵に感謝しないではいられないわけなのである。」(同誌1977年3月号11ページ)

### 宗教の道において終始必要なのは感謝の心

宗教の基本は、感謝の心であると言われています。

「宗教の道において終始必要なのは、感謝の心なのである。

神や、空気水等の自然現象、動植物、人々等あらゆるものに対して、日々瞬々感謝の心を失わぬという事こそ、神との一体化をなし得る最大の行であり、人類進化の根源の心なのである。

感謝の心こそ光明であり愛であるのである。人類すべてが根本の心をこの感謝行においたならば、世界の平和は自ずから成り立つのである。

宗教の道を志さず者は、率先してこの感謝行に生きるべきで、そのことは全て枝葉末節のこととも言えるのである。宗教的な深い学問も様々な行もすべて、常にこの感謝の心が自ずと生まれ出でる境地になる為のものであり、そこから神のみ心の愛のひびきが、宇宙に溢れ出でるという事になるのである。」(同誌1971年6月号7ページ)

以上を整理しますと、神に感謝し、全ての物事、事柄に感謝する心は、すでに祈り心と等しいものであり、人間にとって感謝し合う心は尊いことであるし、真理が自然に現われ神のみ心が自ずと現われる。また感謝というのは、ぐっぐう気持ちかというところ、相手と一つになることであり、愛の現われである。相手と一つになり、しかも神さまのみ心の中に昇ってゆくというのが、感謝なのである。それが完全に成就された時、ワグネスの世界が、私たちの目の前に現われるということでしょう。

### 天地を動かす真の言霊

昌美先生は、五井先生が実在界の言（光）の中に昇華してゆく善い言葉や真の言霊と表現し、「天地を動かす 真の言霊」(『白光誌』2011年10月号)において、次のように言及されています。

「全世界に壊滅的な未曾有の現象が生ずるのはこれからである。その究極的な核となるものが一気に噴き出るのを極力抑え、限りなく小さな現象として、何百回、何千回、何万回と小出しに現象界に現わしてゆくのが今生に誕生した一万数千人の神人たちの働きである。それは、神人が発してきた言霊により、成就してゆく。こわらさずには宇宙神のご計画であり、神庭会議にて決められ、執り行われているものである。」

神人は、肉体を持ちつつも本来の神意識をしつかりと理解して行動に現わしているからこそ、神々が、五井先生が望まれし世界人類の救世者として、天地共同創造者として神々のご計画に組み込まれている。」

「世界中に経済危機、紛争危機、大自然危機、その他種々さまざまなる危機が勃発している。・・・がそれすらも現象世界に現れる以前、即ち幽界においてはもっともっと凄まじき状況であるだけに、すべての大難を小難に変容させてゆく神人たちの祈りと言霊の成果には、目を見張る思いがしている。(略)

世界には神人たちのように世界の不調和、混乱、未曾有の災害に対して祈っている人々も実に多いのである。

しかし、その中でも言霊の偉力に勝るものはない。言霊の本来の働きは、天地を動かすほどのものである。

天地を動かすほどの偉力を発揮させるためには、自らが自らの神、即ち「我即神也」に対する信をもっともっと強力にし、信を固め、一瞬たりとも不安感や疑いが出ないように習慣つけることが大事である。

そのためには、まず何回、何十回、何百回、何千回、何万回と真理の言霊を発し続けることによりいつの間にか自分自身が自らの神聖に気づき、目覚め、強く信ずることができるようになるのだ。

2012年と2013年の7月の「ご神事」において、私たちは「すべて  
は完璧、欠けたるものなし、大成就」の真の言霊を発し、昌美先生の「ご  
指導のもとに宇宙神の光を私たちの頭頂に降ろしていただき、私たちの  
言霊を天に刻印していただきました。

そしてついに、2014年、新年祝賀祭において、私たちは「宇宙神  
の根源に汝らの魂は直結した。」という五井先生のメッセージを、昌美  
先生を通していただいたのです。

さらに2015年1月、呼吸法のやり方について、昌美先生より「指  
導いただき、宇宙の光を自分の周辺に降ろし、（一瞬たりとも不安感や  
疑いが出ないように）心の整理をすることにより、私たちが発する真の  
言霊は、偉力がますます発揮していく足掛かりを得ました。

私たちは、先の五井先生のお言葉の中にある「常に、言葉の使い方を  
勉強し、想念波動の在り方に気をつけて、常に常に、神のみに叶う言  
葉使いや想念波動にしてゆへ（こ）に留意してゆへ（こ）が大切なこと  
が分かります。

神様からいただいた「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」「○  
〇様、神聖復活大成就」はいうまでもなく、「大難を小難にしていただ

いた。ありがとうございます」「や」「すべては必ずやゆへ（こ）の言葉  
の使い方例でしょう。別の言葉で言えば、すべてを明るく受け止め、  
明るく生きていく、さらに言えば、すべて守護の神霊に対して感謝して  
ゆへ（こ）でしよう。

そして、私たちが神事として行っている「世界平和の祈り」、「光明思  
想徹底行」、「地球感謝行」等は、私たちが自らの神聖に気づき、目覚め、  
強く信ずることができるようになるのに、いかに役立っているのか、そ  
して私たちの発する言霊の偉力をいかに高めているかが分かります。

日本では、万葉集に「磯城嶋（しきしま）の 大和の国は 言霊の 助  
ける国ぞ ま幸くあり（そ）（柿本人麻呂）などの和歌があるように、言  
霊の力によって幸せがもたらされる国とされ、昔から言葉に宿っている  
不思議な霊威。その力が働いて言葉通りの事象がもたらされると信じ、  
善い言葉を大切に使われ、事実、言葉通りの事象をもたらしてきました。

例えば、念仏門の妙好人と呼ばれた方々であり、また現代では、あり  
がごとくございますという言霊をひたすらマンダラに書き続け、あるいは  
唱え続け、神聖に目覚め、神聖を現わしている神人も既におられます。

私たち神人は、現在、潜在的に培われてきたその能力を生かし、いよ  
いよ発揮する時を迎えていると言えます。